



2025年11月のプレスセミナーより

若年層が抱く矯正歯科治療のイメージと現実

— アンケート結果から読み解く後悔のない矯正歯科の選び方 —

公益社団法人日本臨床矯正歯科医会(会長 土屋朋未)では、全国の10代から70代の男女800名を対象に、「矯正歯科治療に関する意識調査」を実施しました。

その結果を踏まえ、2025年11月6日、メディア向けプレスセミナーを開催しました。

本稿では、当会が実施した意識調査の全体像の中から、特に矯正歯科医院選びに関わる結果を抜粋し、調査および講演内容をもとに、矯正歯科治療を検討する人々が抱いているイメージと、実際の治療との間に生じているギャップについて紹介します。

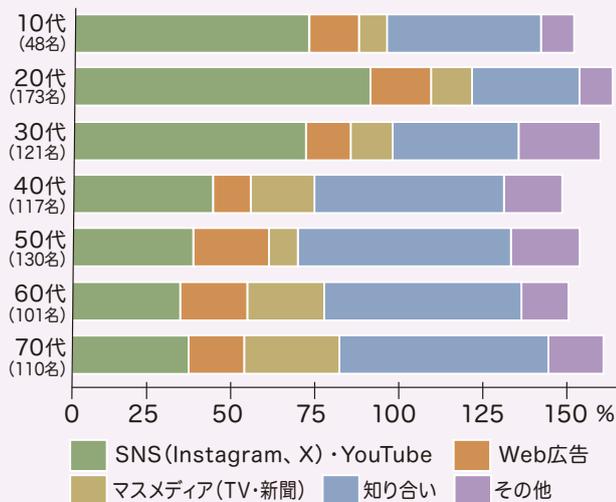
こうしたギャップが、医院選びの段階で判断を誤る要因になり得ることから、医会として注意喚起の意味も込めて整理しました。



■ 今回実施したアンケートの調査概要 調査方法: インターネット調査 / 調査期間: 2025年10月1日～10月7日
調査対象: 全国の矯正歯科治療を検討中の15～79歳男女 / 有効回答数: 800名

Q 矯正歯科治療を検討する際の情報源は何か?

(単位は%、複数回答)



Notes

- 若年は、SNS (Instagram, X)・YouTubeからの情報収集が非常に高く、10代で68.8%、20代では87.2%にのぼる。
- 50代ではSNS・YouTubeの利用は35.4%、対して知り合いからの情報が66.9%となっている。

1 情報源の偏りが判断を誤らせる

調査からは年代によって矯正歯科治療に関する情報の集め方に大きな違いがあることが明らかになりました。特に、10代・20代では、SNSや動画配信サービス、インターネット広告などを通じて情報を得る割合が高く、情報収集の入口がデジタルメディアに大きく依存している傾向が見られます。

一方、50代以上では、知人・家族など身近な人からの情報を重視する割合が高く、情報源の質や経路に世代差が存在することが浮き彫りになりました。

SNSは治療に関心を持つきっかけとして有用な面もありますが、費用の安さや短期間での治療を謳い文句にし、治療内容を十分に説明していない広告的情報や、治療過程を省いた見た目のよい症例写真など、中立性に欠ける情報も混在しています。こうした情報に触れる機会が多いほど、治療内容や医院選びに関する判断の前提そのものが偏ってしまう可能性があります。そのため、情報の背景や根拠を確認する視点が、これまで以上に重要になっています。

2 調査から見えた3つのギャップ

今回の調査では、情報源の違いに加え、矯正歯科治療に対する認識と実態との間に、いくつかのギャップが確認されました。

第1に、治療費に対する認識です。多くの回答者が実際の治療費相場よりも低い金額を想定しており、「60万円未満で治療できる」と考える人が多数を占めました。第2に、治療期間への理解です。全年代の約8割が「2年未満であれば治療したい」と回答しており、実際には2～3年を要することが一般的な矯正歯科治療との間に差が見られます。第3に、治療方法の選択理由です。マウスピース矯正など、見た目や手軽さの印象が先行し、治療適応や限界について十分に理解されないまま選択されている実態がうかがえました。

3 後悔しないために 情報の取り方から見直すことが大切

こうしたギャップの背景には、情報の受け取り方や、参照している情報源の偏りが影響していると考えられます。矯正歯科治療は、治療方法や期間、費用が一人ひとり異なる医療行為であり、画一的な情報だけで判断することはできません。

治療を始める前の段階から、専門性や診療体制が確認できる医療機関を候補に入れ、正確な診断と説明を受けることが重要です。後悔のない矯正歯科医院選びのために、当会が考える具体的なチェックポイントや考え方については、裏面で詳しく紹介します。

後悔しない 矯正歯科医院の選び方

矯正歯科治療は、治療方法や期間、費用が一人ひとり異なる医療行為であり、どの医療機関で診断を受けるかが、その後の治療結果に大きく影響します。今回の調査結果を踏まえ、公益社団法人日本臨床矯正歯科医会では、矯正歯科医院を選ぶ際に確認してほしいポイントを整理しました。

情報があふれる時代だからこそ、正しい情報と確かな基準をもとに、後悔のない矯正歯科医院選びを行うことが大切です。

後悔しない矯正歯科医院選びのために
当会からのアドバイス

■ 情報収集の第一歩として

候補となる矯正歯科のホームページを確認

矯正歯科のホームページを見る際は、その医院で治療を行う歯科医師が、「日本矯正歯科学会」の「認定医」「臨床医」(旧専門医・旧臨床指導医)、または「日本歯科専門医機構」認定の矯正歯科専門医であるかどうかを確認しましょう。あわせて、記載されている資格が正規の認定資格であるかも確認することが重要です。また、歯科医師の経歴や治療方針、費用や治療期間、治療の副作用やリスクの説明が丁寧に記載されているのかも、医院選びの大切な判断材料となります。

技術力のある矯正歯科専門の開業医が所属する当会のホームページから、候補となる医院を探すことも一つの方法です。

以下のウェブサイトでは、矯正歯科医院を検討する際に参考となる情報を確認することができます。

日本矯正歯科学会

認定医・指導医・臨床医検索

学会が認定する資格を有する歯科医師を検索できます。矯正歯科治療に関する一定の研鑽や実績を積んだ歯科医師であるかを確認する際の参考になります。

<https://www.jos.gr.jp/roster>



日本歯科専門医機構

矯正歯科専門医名簿

第三者機関が認定した矯正歯科専門医を確認できます。

https://www.jos.gr.jp/asset/list_sp.pdf



日本臨床矯正歯科医会

会員医院検索

当会に所属する矯正歯科専門の開業医院を検索できます。

<https://www.jpao.jp/search>



■ 候補の医院を選んだら 実際に足を運び、次の6点を確認

来院時に確認したい6つのチェックポイント

1	セファログラム(頭部X線規格写真)を検査している
2	精密検査を実施し、それを分析・診断したうえで治療をしている
3	治療計画、治療費用について詳細に説明している
4	長い期間を要する治療中の転医、その際の治療費までを説明している
5	常勤の矯正歯科医がいる
6	専門知識がある歯科衛生士、スタッフがいる

■ 特定の装置のみを扱う(または強く勧める) 医院には注意

ワイヤー矯正以外の特定の装置、たとえばマウスピース矯正のみを扱っている、あるいは特定の装置ばかりを勧めている歯科医院の場合は、治療の選択肢が十分に検討されているか、慎重に確認する必要があります。

マウスピース矯正とは?

透明のマウスピース型装置を段階的に装着し、歯を少しずつ動かす治療方法です。軽度の歯列不正には有効な場合がありますが、咬み合わせを含めた精密な治療や、抜歯を伴う症例には適さないケースもあります。

治療法の選択は症例によって異なるため、特定の装置に限らず、複数の治療方法について説明を受けたうえで判断することが重要です。

※本紙では一般的に社会で使用されている呼称に合わせ、「アライナー」を「マウスピース矯正」または「マウスピース」と表記しています。



本紙で紹介した内容は、公益社団法人日本臨床矯正歯科医会が実施した意識調査の一部です。その他の調査結果や、矯正歯科治療を検討する際の考え方については、当会公式ホームページ内「トレンドウォッチvol.39」をご参照ください。

